お茶の水学術事業会会報　第 62 号

ellipse

［エリプス］

令和 5年 10月

楕円（ellipse）には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心（焦点）となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を［エリプス］と名づけました。

TOPICS

お茶の水学術事業会設立 20 周年記念特別寄稿

「お茶の水女子大学の教育・研究環境整備
～学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する～」

(3) 社会の要請に応える教育・研究組織の構築

室伏 きみ子 氏

ワ・タ・シ

深津千鶴　FUKATSU, Chizu　イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。

特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会

REPORT

＜共催講演会＞ 桜蔭会愛知支部 2023 年公開講演会
「これからの時代に生きる子どもたちに求められるもの」（講師：猶原 和子 氏）
＜共催講演会＞ お茶の水地理学会講演会
「占領下沖縄における学校教育の再開と復興」（講師：萩原 真美 氏）
夢のつばさ♥プロジェクトニュース

INFORMATION

イベント情報
事務局よりお知らせ

お茶の水学術事業会設立20周年記念特別寄稿

お茶の水女子大学の教育・研究環境整備

～学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する～

(3) 社会の要請に応える教育・研究組織の構築

室伏 きみ子（むろふし きみこ）

【プロフィール】
お茶の水女子大学・同大学院修士課程修了、東京大学大学院博士課程修了、医学博士
お茶の水女子大学名誉教授、第16代学長（2015年4月－2021年3月）
「夢のつばさ プロジェクト」企画担当、お茶の水学術事業会会員（元・理事）
日本学術会議会員、日本医療研究開発機構監事、NHK経営委員／監査委員、文部科学省科学技術・学術審議会委員／中央教育審議会委員、経済産業省産業構造審議会委員／独立行政法人評価委員会委員長、内閣府男女共同参画会議議員／男女共同参画推進連携会議議長、（株）ブリヂストン社外取締役 などを歴任。フランス共和国教育功労章受章、文部科学大臣表彰科学技術賞受賞、男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞、ストラスブール大学名誉博士
現在　ビューティ＆ウェルネス専門職大学学長

お茶の水学術事業会設立20周年を記念するエリプス60号と61号において、私がお茶の水で過ごした50年の歳月の中で、多くの方々とご一緒に活動させて頂いた貴重な学びと経験を、読者の皆様にお伝えして参りました。今号（62号）がその企画の最後になりますので、お茶の水女子大学とそのメンバーたちが、社会と時代の要請に応え、教育と研究を通して、社会の未来に向けて努力して来た取り組みについて、ご紹介させて頂きたく思います。

女性たちが自らの能力を十分に発揮するための環境整備

これまでにもご紹介しましたが、本学は、1875年に創設されてから約1世紀半に亘って、多様な面から女子教育を牽引してきました。

女子に教育は要らないと言われ、高い資質・能力を持つ女性たちが教育を受ける機会さえ失っていた時代から、多くの女性たちが高等教育を受け、社会で活躍するようになった現在まで、お茶の水における教育・研究を担って来た方々や、お茶の水から社会に羽ばたいて様々な領域で活躍して来た女性たちが果たして来た役割は、とても大きかったと思っています。

● 多様な人々の交流の場の整備と学内寮の新設

私自身が関与したり見聞きしたりしたことしか、ご案内することが出来ませんが、長い期間に亘って、多様な方々が、年齢や国境を越えて、互いの理解を深めるための交流の場を創る努力をされてきました。お茶の水のキャンパスは、保育園児から大学院生まで、また同窓生や教職員が一つの空間に集うことが出来る、とても貴重なキャンパスです。ここで時間を共有することで育まれる人と人との関係は、何物にも代えがたい宝物になっていることと思います。私も、附属中学校入学から学長退任までの人生の大半を過ごした年月は、心と体にしっかりと沁みついて、今の私を創る土台となっています。

たまたま私が学長の時代に、国の経済状態が悪かったこともあって、かなりの自由度を持って、国立大学の様々な事業に民間の力を導入することが出来る様になりました。それを好機に、長くお付き合いがあった産官学の皆さまのお力をお借りして、いくつかの事業を実現することが出来たことは、大変ではありましたが、幸運なことだったと思っています。

中でも、以前にご報告した「国際交流・留学生プラザ（Hisao & Hiroko TAKI PLAZA）」とそれに併設された「同窓会コモンズ」は、2018年の開設以来、多くの方々が、日々の生活や学びの中で、また、特別な行事などに利用されています。休日にもカフェや会議場などが賑わっている様子を見ては、この施設が出来たことをとても嬉しく思っています。春日通りから直接入れることや、樹々の緑や美しい門扉と調和した隈研吾さんの設計による素敵な建物、そして、日本を代表する素晴らしい芸術家の方々の手による作品が設置されていることも、高い人気の理由だと思われます。

また、ご高齢の方々が、起伏の多いキャンパス内を自由に移動できるようにと設置した屋外エレベーターを、皆さんが便利に使って下さっているのも嬉しいことです。今は当たり前になって、何とも思わない人が多い様ですが、設置当時は、若い人たちからも「重い荷物を運ぶのがとても楽になった」

との声が届いていました。

●●●

さらに、2022年3月に竣工した学内寮は、地方出身の学生たちや保護者の方々の不安を取り除き、安心して学習と生活を送る上でも、大いに役立っている様です。

私が学生だった頃には、一部屋に4人が共に生活する古い学内寮があって、地方出身の友人たちの多くが、そこを拠点に、勉学やサークル活動などに励んでいました。その寮は、1956年に建てられた木造2階建てのもので、友人たちによると、夜遅くまで何らかの活動や勉強をしたくても、同室の人たちの睡眠の邪魔になるので、一定の時刻前には就寝するように気を使っていたそうです。

そんな時代とは全く異なる新寮には、美しく、また便利に整えられた個室と、様々な共用スペースが創られているはずです。以前にご報告した保育園の設置などと同様に、若い女性たちが安心して学びを継続する上で、大きな助けになるでしょう。新たな学生文化も生まれるかもしれません。新設に当たってお力をお貸し下さった多くの皆さまに、心から御礼申し上げたく思っております。

もう30年も前のことになりますが、地方出身の学生の一人から、こんな話を聞いたことがあります。「私がお茶の水女子大学を受験することを知った親戚の人たちから、『Aちゃんは女の子だし、県内屈指のB高校を優秀な成績で卒業できるのだから、地元の大学か短大に行って、C電力とかD銀行の人と結婚すれば、幸せに暮らせるのに。何があるか分からない東京なんかに出て行って苦労するより、その方がお金も掛からないから、ずっと親孝行だよ』と言われました。でも母が、『女の子でも、やりたいことをやらせてあげたい』と言って、東京へ出してくれました。」またAさんは、次のようにも言っていました。「できれば、費用が掛からない学内寮に入りたかったのですが、4人一緒のお部屋だと、夜遅くまで集中して勉強することが出来ないので、親には負担を掛けて申し訳なかったのですが、大学の近くの部屋を借りました。」

今は、「女の子だから・・・」と言われることは、当時より格段に少なくなっただろうとは思いますが、恐らく、似たような経験をした学生や卒業生は少なくないと思います。希望する学生たちが学内寮で過ごすことが出来れば、彼女たちは、夜遅くまで勉学等に励むことが出来るでしょうし、夜中まで掛かっても、安心して研究室で学習や研究をすることが出来るでしょう。理系、特に実験系の学生たちにとっては、夜遅くまで掛かる実験や、徹夜をしなければならない実験を行う際に、交通機関などの心配をせずに済みますので、大いに助けになります。私自身、附属中学校の頃から近隣の埼玉県浦和市（現・さいたま市）から通学していましたが、大学生になってからは、実験が夜中まで掛かることや、気が付いたら朝になっていたことも少なくなく、その度に学内に宿泊できる場所があれば良いのにと思ったものでした。

学内外の多くの方々に助けて頂きながら、寮の新設のための様々な準備を整えて、業者さんとの契約も済ませ、設計図をいろいろと手直ししたり家具の配置や色彩などを考えたりして、完成を楽しみにしていたのですが、工事が始まった頃に任期を終えましたので、出来上がった学内寮の様子を見ることはかないませんでした。大変お世話になった、産官学界の方々にご覧頂けなかったことも、残念なことでした。

●●●

この事業に限らず、本学の学生たちのためにと、同窓生の方々や学内外の多くの方々がお力をお貸し下さっているのですが、それが殆ど伝えられることなく忘れられてしまうことが、残念でなりません。エリプス第60号から3回に亘り、一部ではありますが、それ等の中から私が知っていること、関わって来たことを書かせて頂きましたので、読者の皆さまには、是非、応援して下さる方々の温かい想いを知っておいて頂きたく思います。

女性の学術分野での活躍推進のための活動と、女子の理系への進学推進と女性研究者支援のための活動

お茶の水女子大学の教員たちは、女性が学術分野で活躍できる社会をつくるために、様々な形で、学内外での活動を続け、その拠点づくりを進めて来ました。特に、本学の看板ともなっているジェンダー平等を実現するための取り組みと、国民全体の科学リテラシーの向上を図り、女子の理系進学を後押しすると共に、女性研究者を育成・支援するための取り組みを、ご紹介させて頂きます。

❶ 日本学術会議における活動と協働した女性支援のための取り組み

本学には、日本学術会議で活躍して来た女性教員が少なくありません。最近、会員の任命拒否など、学術会議を巡る話題がメディアを賑わせていますが、元々、日本学術会議は、「科学は文化国家の礎である」との理念の下で、行政や産業、国民生活の中に科学を根付かせ、科学的思考や技術に基づいて社会課題の解決を図ることを目的に、政府から独立して職務を行う「国の特別な機関」として、1949年に設置された組織です。すべての分野の科学者によって構成され、210名の会員と約2,000名の連携会員（第19期までは「研究連絡委員会」の委員という位置づけでした）で構成されており、一期3年で、第20期からは、会員の任期は二期迄、定

年 70 歳と定められました。

日本学術会議で最初の女性会員（東邦大学理事・猿橋勝子博士、全会員数の 0.5%）が選出されたのは、第 12 期のことでした。その後、13 期と 14 期には 3 名、15 期に 4 名、16 期には僅か 1 名となり、17 期に 2 名、18 期に 7 名となってからは、19 期 13 名、20 期 42 名、21 期 43 名、22 期 49 名、23 期 49 名、24 期 69 名と徐々に増えて、25 期（現在）は 77 名（37.7%）となっています。私は、第 17 期に研究連絡委員会の委員に推薦され、19 期に会員に選出して頂きましたが、学術会議で仕事をしていてとても嬉しかったのは、お茶の水の関係者が多様な会員の中で大きな役割を果たしていらっしゃることでした。

女性会員が僅か 1 名に減ってしまった 16 期に会員をお務めになって、女性の学術・研究における役割の重要性を発信されていた島田淳子（あつこ）先生や、17 期と 18 期に学術におけるジェンダー平等を訴え、世界的に活躍された原ひろ子先生、18 期と 19 期に男女共同参画の動きを活発化させるために、政府の委員会等でもご尽力下さった袖井孝子先生のご活躍は、特筆すべきものだったと思っています。さらに、19 期からご一緒に学術会議で活動させて頂いた本田和子（ますこ）先生は、日本の女子大学のあるべき姿を発信されて、日本だけでなく、開発途上国を含む世界の女子教育のために大きな成果を挙げられました（60 号と 61 号に詳しくご紹介してあります）。お茶の水の女性教員の方々が、日本の学術界と世界の女子教育の推進に残された足跡は、その後に続く女性たちに、進むべき道を指し示して下さっていると言っても、過言ではないと思っています。

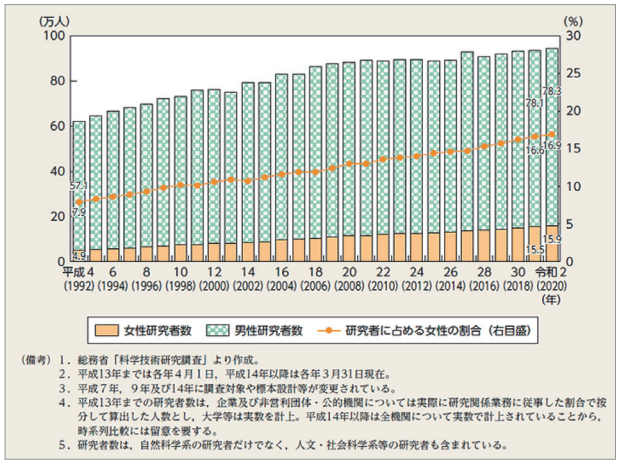
そして、先生方の活動は、お茶の水女子大学の中でも、長い歴史を持つ「ジェンダー研究センター（現・ジェンダー研究所）」を確固たる存在とすると共に、さらなる発展を促しました。また、「開発途上国女子教育協力センター」における世界に開いた活動によって、お茶の水女子大学の社会的価値を高めて下さいました。

なお、開発途上国女子教育協力センターは、国立大学の法人化に向けて、アフガニスタンの女子教育の振興のための活動拠点として設置されたもので、藤枝修子先生、戒能民江先生を中心として、壊滅状態にあったアフガニスタンの女子教育の再興のために、5 女子大学コンソーシアムのメンバーの方々と共に、きわめて困難な状況を切り拓くべく、大変な努力をされました。私は、命の危険がある現地へも出かけて行って活動される方々の姿に感動しながら、本田和子学長のご指示の下で、国際担当の理事・副学長として、皆さまの活発な活動の裏方として働いていました。

現在、この時の皆さまのご努力が水泡に帰しているような状況ですが、きっと、将来大きな実を結ぶ時が来ると信じています。

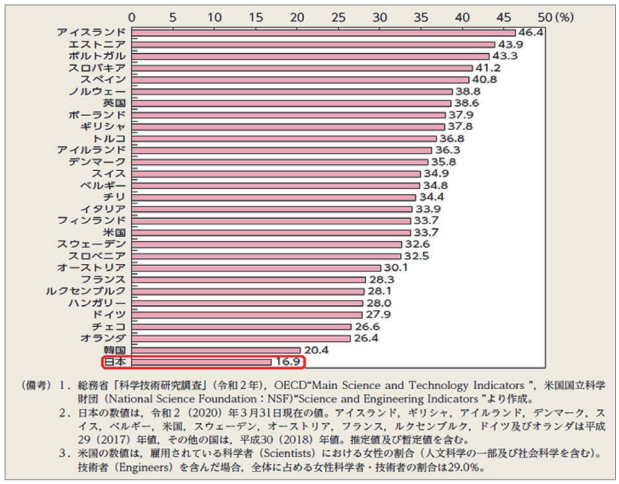
❷ 内閣府男女共同参画会議における女性研究者の環境整備のための活動との協働

内閣府から公表されている「男女共同参画白書」によると、2020 年時点において、日本の女性研究者の割合は年々少しずつ増えてはいるものの（図 1）、諸外国に比べて著しく低く、全研究者に占める女性の割合は欧米のほとんどの国で 30% を超えているのに対して、日本では僅か 17%にとどまっています（図 2）。さらにこの数字には、博士課程の大学院生が含まれており、これは諸外国から公表されている数値と異なることもあるため、実態を正確に表しているとは言い難い面があることに注意する必要があります。



（備考）1．総務省「科学技術研究調査」より作成。
2．平成13年までは各年4月1日，平成14年以降は各年3月31日現在。
3．平成7年，9年及び14年に調査対象や標本設計等が変更されている。
4．平成13年までの研究者数は，企業及び非営利団体・公的機関については実際に研究関係業務に従事した割合で按分して算出した人数とし，大学等は実数を計上。平成14年以降は全機関について実数で計上されていることから，時系列比較には留意を要する。
5．研究者数は，自然科学系の研究者だけでなく，人文・社会科学系等の研究者も含まれている。

図 1　日本における女性研究者数と割合の推移（「男女共同参画白書」より）



（備考）1．総務省「科学技術研究調査」（令和2年），OECD"Main Science and Technology Indicators"，米国国立科学財団（National Science Foundation：NSF）"Science and Engineering Indicators"より作成。
2．日本の数値は，令和2（2020）年3月31日現在の値。アイスランド，ギリシャ，アイルランド，デンマーク，スイス，ベルギー，米国，スウェーデン，オーストリア，フランス，ルクセンブルク，ドイツ及びオランダは平成29（2017）年値，その他の国は，平成30（2018）年値。推定値及び暫定値を含む。
3．米国の数値は，雇用されている科学者（Scientists）における女性の割合（人文科学の一部及び社会科学を含む）。技術者（Engineers）を含んだ場合，全体に占める女性科学者・技術者の割合は29.0%。

図 2　研究者における女性の割合・国際比較（「男女共同参画白書」より）

女性研究者の割合が低いことは、特に自然科学系で顕著です（図 3）。研究人材を育成する大学の学部学生に占める女性の割合は、人文科学 65%、社会科学 36%であるのに対して、理学は 28%、工学は 16%と、かなり低い状況があります（文部科学省「令和 2 年度学校基本調査統計」）。こうした現状は、女性たちの潜在的な資質・能力を活用できず、すべての領域における研究や開発を遅滞させ、学術全体の多様

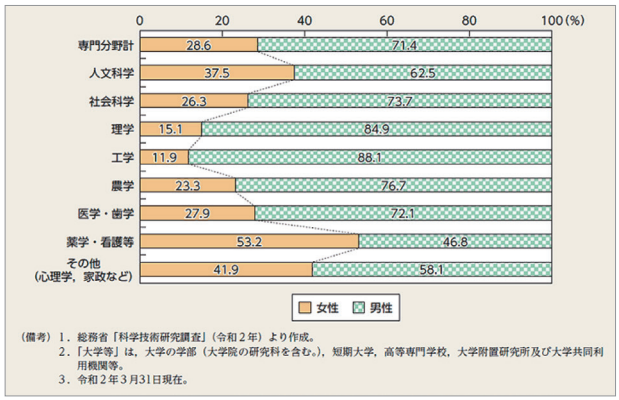


図３　専門分野別に見た大学等の研究本務者の男女別割合（「男女共同参画白書」より））

性を損なうことに繋がります。ひいては、日本の研究力低下や経済活動の停滞の原因を作っているとも言えるでしょう。

そういった状況を改善するために、文部科学省は、2022年度から、学長や副学長、教授など、准教授以上の上位職の女性割合を増やす大学や国立研究開発法人を支援する新たな制度を導入しました（ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ「女性リーダー育成型」）。事業期間は６年間（うち補助期間５年間）、支援金額は上限 70 百万円程度 / 年・件、採択件数は新規６件程度という恵まれた制度となっています。

また、「第５次男女共同参画基本計画」（https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/5th/index.html）や「第６期科学技術・イノベーション基本計画」（https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index6.html）では、職位別の女性割合の数値目標を掲げており、准教授を30%、教授、副学長、学長を各 23%と定めていますが、文科省は、少なくともそれ等の目標を上回る数値を掲げることを条件として、人件費を補助する施策を進めています。

「指導的な立場にある女性教員を増やすことで、女性が働きやすい研究環境作りを後押しする」との方針は、20 年以上に亘って研究・開発に従事する女性たちを中心に提案されて来たことでしたので、「やっと・・・」という感も否めませんが、画期的な施策ではありますので、この課題に長く関わってきた女性研究者の一人として、目に見える成果が挙がることを願っています。

学術会議でもご活躍された袖井孝子先生は、男女共同参画会議の議員をお務めになると同時に、その下部組織として2005 年に設置された「男女共同参画会議基本問題専門調査会」の会長を 2007 年から長年務められました。私も、この調査会に委員として参加していましたが、設置当初から会長を務められた岩男壽美子先生（慶応大学）と袖井先生のお骨折りは、2000 年から５年毎に改定されている「男女共同参画基本計画」に大きな影響を与えています。私は、男女共同参画会議の議員や男女共同参画推進連携会議の議長として、第４次と第５次基本計画の策定に関わらせて頂き、その過程で多くを学びました。そして、それらの経験が、学内のいくつかの組織の設立や運営に大いに役立ちました。

この「男女共同参画基本計画」や「科学技術・イノベーション基本計画」は、各省庁の施策にも大きな影響を与える重要なものですから、女子教育の牽引役としての本学の教員たちに、将来に亘って、その策定などに深く関与して行って頂きたいと思っています。

●●●

なお、2004 年の法人化前後から、理学部長や附属学校担当副学長をお務め頂いた真島秀行先生や、サイエンス＆エデュケーションセンター長や附属学校担当副学長を務められた千葉和義先生をはじめとして、多数の教職員が、文部科学省や学術会議と協働した、社会における科学リテラシー向上のための活動や、女性研究者を増やすためのプログラムへの協力、また、初等中等教育段階における女子生徒の理工系への進学の推進（図 4）、内閣府等との協働による社会と科学におけるジェンダー平等の実現（図 5）などのために尽力して来られました。これらの活動が、日本の教育政策に大きな影響を与えて来たと言っても過言ではありません。さらには、サイエンス＆エデュケーションセンターの重要な仕事の一つとして、センター員の皆さまが東日本大震災などの自然災害に対応した理科教育の復興・支援に尽力されて来ました。

これらは、社会から高い評価を頂いている素晴らしい活動です。

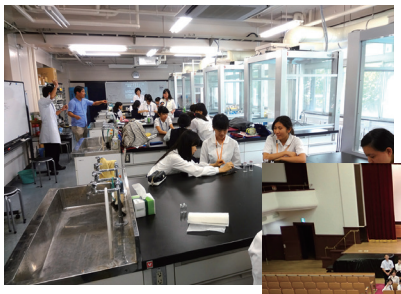


図４ 千葉教授を中心に実施されているスーパーサイエンスハイスクールに選ばれた女子校の生徒への研究指導

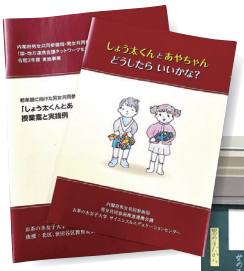


図５ SEC 研究協力員（元・本学大学院講師）の滝澤公子博士を中心に実施されている子ども達に向けたジェンダー平等教育の教材の例と授業風景

❸ 新たな研究所、研究機構の設置

ヒューマンウェルフェアサイエンス研究教育寄附研究部門の設置から
ヒューマンライフイノベーション開発研究機構の設置へ

外部人材との共同研究や共同事業を推進するために、文科省の方々ともご相談して、2010 年に小さな研究組織を立ち上げました。そして、定年退職を機に、2013 年 4 月から、「ヒューマンウェルフェアサイエンス研究教育寄附研究部門」を正式な部門として位置づけました。そこを拠点に、各種財団や企業から資金を獲得して、特任教員、事務補助員、ポスドク等を雇用し、毎年数百万円程度の経費（研究費の処理に対する間接経費と研究室の借料）を大学に支払って、研究を続けて来ました。この研究部門で掲げた目的は、以下の通りです。

> 本寄附研究部門は、2013 年 4 月から、『株式会社アルビオン』と『SANSHO 株式会社』のご支援により、お茶の水女子大学に開設されました。これまで長年に渡って、本部門の教員たちが両社と共同研究を行い、さまざまな成果を挙げて来ました。それらの成果を、さらに発展させ、人々のために貢献できる研究・開発とするために、本研究部門が開設されました。 本研究部門では、人が一生を通じて健康で心豊かに暮らすために役立つ技術の開発と人々の生活の質（Quality of Life, QOL）を向上させることを目指し、そのための方策を研究し、それらを社会に向けて発信します。さらに、社会における新たな価値創造に貢献する人材の育成も本研究部門の目的のひとつに掲げています。 具体的には、健康科学に基づいた化粧品や医薬品の研究・開発を基本とし、人々が健康な生活を維持し、QOL を向上させるために必要な技術開発の考え方や知識・技術・社会資源と制度などを研究・調査します。そして、実際に人々の健康な生活に役立つ技術や製品を世に出し、さらに、将来を見通した学術の創成や、新規技術の創出、産学官民の連携による新たなイノベーションの実現を目標としています。また、それらの実現を通して、次世代の研究・開発を担う人材を育成することを目指します。

その運営は順調に進みましたが、私がお茶の水の学長に就任することになったことから、全学的に企業等との共同研究を進め、研究者たちの外部資金獲得を支援するために、この研究部門のノウハウを、2015 年に全学的な組織として設置した「ヒューマンライフイノベーション研究所」の運営に活用することにしました。

さらに、「人間発達教育科学研究所」を立ち上げて、その 2 つの研究所を緩やかに連携させ、発展形としての文理融合の研究機構「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」を設立し、この機構の活動を、大学としての概算要求の柱の一つとして、文科省からの予算獲得を図りました。幸い、文科省からも高く評価して頂き、毎年数千万円の予算も獲得することが出来ました。

また、教員たちが個々に努力して来られた企業等との共同研究や資金導入を、研究所がハブとなって進めることで効率化を図りました。その結果、多くの教員と企業とのマッチングが推進され、それぞれの研究に大きな資金の導入も実現することが出来ました。

未来に向けて

❶ ジェンダー平等と多様な人々の幸せのための「ジェンダード・イノベーション」の推進

「ジェンダード・イノベーション（Gendered Innovations）」という言葉と概念が、メディアでもよく取り上げられるようになって来ましたが、まだ一般にはよく知られていないので、少し詳しくご説明させて頂きます。

この概念は「積極的に男女の体の構造や機能について性差分析を行い、その成果を研究・開発の中に取り入れることで、新たなイノベーションを創出することをめざす」もので、最初、2005 年に米スタンフォード大学のロンダ・シービンガー博士によって提唱されました。2009 年には、同大学が、シービンガー博士の下で「Gendered Innovations Project」を開始し、その活動が欧米を中心に年々拡大されて来ています。

長い歴史の中で、多くの研究・開発は男性を基準として進められていて、女性の立場や性差は見過ごされることが少なくありませんでした。シービンガー博士の提唱以来、様々な領域で、男女の身体構造や機能の差異、社会的・文化的側面、加齢に伴う変化、などの性差分析が進み、男女の性差を考慮しなければならない例が数多く見つかって来ています。例えば、(1) 車のシートベルトは、元々男性の体形を前提に開発されてきたもので、事故に遭遇した際に、男性よりも女性の方が重症を負う確率が高いこと、特に妊婦が事故に遭ったときに胎児が死亡する例が少なくないこと、また、乳がん手術後の女性にとって、シートベルトの着用が引き起こす痛みは無視できないこと、(2) 薬剤によっては、男女で効果が大きく異なる場合があること、(3) 大腸がんなどの疾患で、病巣の形や位置、進行度が男女によって大きく異なる場合があること、(4)AI による顔認識や音声認識の精度が異なり、女性の方が誤って認識されることが多い など、長く放置されてきた事例が明らかになって来て、改善のための研究や開発が進められるようになって来ました。

私たちは、生物体の働きや様々な物質の生理作用などを調べる上で、動物を使った実験をすることが多かったのですが、以前から、雌には性周期があるためにデータがばらつくので、「動物実験では雄を使いなさい」と言われて来ました。それがおかしいと思うことなく多くの実験を繰り返したことが、場合によっては大事なことを見落としていた可能性もあった

と気付き、今になって残念な思いをしています。

欧米では、ジェンダード・イノベーションの考え方が浸透して来ており、多くの科学雑誌では、論文を投稿する際にその点を考慮することが義務付けられています。

●●●

残念なことに、日本では、ほとんどこういった改革の動きがみられない状況でしたが、シービンガー博士の様々な著書を翻訳されていた小川真理子博士（三重大学）やその重要性を認識されていた渡辺美代子博士（科学技術振興機構、現・日本大学）が、この概念を日本にも根付かせたいと活動を開始されていました。スタンフォード大学からは 10 年近くも遅れましたが、私たちは、女子教育の牽引役となることが期待されているお茶の水女子大学が、ジェンダード・イノベーションの研究･開発のハブとなるべきであろうと考えました。そして､この分野に関係のある研究者や研究機関を結び付け、女性研究者支援を中心として、産官学連携や政策提言を行うことを目的に、ネットワーク作りを、各方面に働きかけてきました。私の任期中だけでも、「お茶の水と女性たちの幸せのために」と、全財産をご遺贈下さった附属高等女学校を卒業された和田禮さまをはじめとして、複数の同窓生の方々から､合計 8 億円余りものご寄付を頂くことが出来ましたので、これらの事業にも活かしていこうと考え、ご寄付者のお名前を冠した組織を創ることを、関係者の方々に提案して来ました。

幸い、この分野に興味のある女性研究者たちが手を挙げて下さったこともあり、また、国立大学協会の理事会でも、複数の国立大学の学長の方々が、一緒にやろうとおっしゃって下さって、ご支援も頂けることになったことから、お茶の水女子大学がこの分野を進展させるためのハブになりたいという想いを、内外に表明しました。さらに、この分野の重要性に関して､内閣府の会議や経産省の委員会などでもお話をし、その意義を認めて頂くと同時に、今後を担う若い研究者を紹介させて頂きました。資金と人材が揃ったことは、とても嬉しいことでした。私の任期の最終年度に、やっとそこまでたどり着きましたので、その後の進展を願いつつ、次代の方々に引き継ぎました。

学内手続きに時間が掛かりましたが、2022 年 4 月、お茶の水女子大学に「ジェンダード・イノベーション研究所」が設立されました。これまで、障害を克服しつつ、この事業を誠心誠意進めて下さった佐々木成江博士をはじめとする皆さまに、心から感謝しています。

性差があるのであれば、男女ともが、その差を埋めて公正な状況で生活できる状況を作ることがジェンダード・イノベーションの精神であり、公平（equality）ではなく「公正（equity）であるべき」という考え方は、真の意味でのジェンダー平等や幸せな人生を創るうえで、重要な概念だと言えます（図 6）。

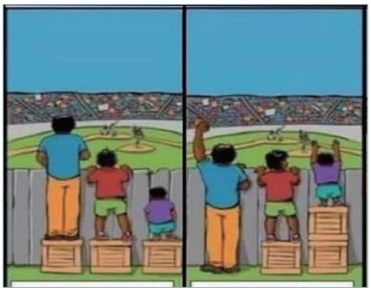


図 6 Equality と Equity

ジェンダード・イノベーションを進展させ、社会に根付かせる上では、生物学的性差（sex）と社会学的性差（gender）の両面から分析することが必須です。理系の人たちと文系の人たちとの考え方の間には、これまで大きな開きがありましたが、ジェンダード・イノベーションは今後、理系と文系がしっかり協力し合って考え、実現して行かねばならない領域です。多くの方々の協力の下での進展に、期待したいと思っています。

❷ 工学部の新設

女子生徒の工学系への進学率が極めて低いことは前にも述べましたが、この課題を解決するために、私たちは、あえて「女子大に工学部を創る」ことを、提案して来ました。

先ず、奈良女子大学からお誘い頂いたことから、2016 年度から､奈良女子大学と共同で､「理系女性教育開発共同機構」と大学院に生活者の視点に基づく「生活工学共同専攻」の課程を創りました。その後、大学院での教育と研究が順調に進むことと、学生たちのニーズが高いことを見届けて、工学部の創設に向けた検討を開始しました。新しい工学部も、生活者の多様性に基づいて、社会の持続的発展を図ることをコンセプトとし、情報やデータサイエンスにおける専門的な知識の獲得に加えて、社会との対話を通じて課題を見出し解決して行く能力の涵養を図ることを計画していました。

学部設置についても、奈良女子大学と連携することで、不足する人材や領域をカバーすることを考えていましたが、残念なことに、学内での準備が思うように進まず、奈良女子大学が工学部を設置した 2022 年度から 2 年遅れて、2024 年度からの開設になりました。

最近、多くの共学校が工学部に女性枠を作っている状況がありますので、それに対抗して優れた学生を獲得し、育てていくためには、本学の特色を強く前面に押し出していく必要があるだろうと思い、陰ながら応援しています。

最後に

3 号に亘って、お茶の水女子大学の教育・研究における環境整備についてのご紹介をお読み頂き､有難うございました。他にも、お伝えしたいことが沢山ありますので、また機会がありましたら、ご紹介させて頂きたいと思っております。

◆事業報告 共催講演会

桜蔭会愛知支部 2023年公開講演会

「これからの時代に生きる子どもたちに求められるもの」

講師：猶原 和子 氏（江戸川大学メディアコミュニケーション学部特任教授、昭54音卒）

【開催日時】 2023年5月20日（土）14：00 ～ 16:00
【会場】 ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
【参加費】 無料

2023年度愛知支部公開講演会は、江戸川大学特任教授猶原和子先生をお迎えし、『これからの時代に生きる子どもたちに求められるもの』～フレネ教育の日本での実践を通して～というテーマでお話しいただきました。

対面での講演会開催は4年ぶりで、参加者は愛知、その他の地域の同窓生及び一般の方、合計32名。

聞きなれないフレネ教育とはどんな教育法なのでしょう？フランス人教育者フレネの提唱した「聴き合い、対話して表現力を高める教育」で、エスプリを共有し、教育方法を固定するのではなく、時代や文化、地域によって柔軟に変容し続けるもの。イタリアのレッジョ・エミリア教育やオランダのイエナプランにも影響を与え、世界30か国以上で実践されているとのことです。

先生は、膨大な資料を準備され、また、実践編としてお茶大附属小での取り組みを具体的に紹介して下さり、専門家ではなくても興味深く拝聴することができました。

これからの時代に向けてのメッセージとして、次のような理念を語られました。

❶ 子どもも大人も学び手 ともに「市民」として尊重しあう
❷ ダイバーシティとインクルーシブが叫ばれる中、異なりをもっと大切に
❸ 幼保の一元化・就学前学校 幼児期からのボトムアップ教育を考えたい
❹ 教室はアトリエ！学習環境を改善し、子どもの興味から出発した個別～協同～プロジェクト型の教育を
❺ 大人が学びあうことを楽しむ 対話は「聴く」ことから小学校の先取り教育を行う幼稚園がもてはやされ、自由な営みを尊重する幼稚園が廃園に追い込まれている現実、従来の教育制度を変えていく難しさ、疲弊して優秀な先生方が離職される状況。憂慮すべきことも多々あるようです。

フレネ教育を推し進めるにあたり、先生方の資質や情熱、周囲の協力、さらに大人の価値観の転換等ハードルは高く感じられますが、教育改革のために勇敢に立ち向かわれている猶原先生他、若きフレネ研究会の方々の存在に触れ、明日の日本の教育に一筋の光を見出しました。

以下、講演会参加者の感想の一部をご紹介します。

- テレビで北欧の学校教育を見た時、すてきだなと思いましたが、先生方の個性が試されるので大変だなと思いました。日本でも少ないもののこのような教育を目指している先生方がいると知り頼もしく思いました。日本はまだまだ管理教育が重視されていますが、子どもは私たちが見たことのない未来の主人公です。頑張っている先生方の話を聞いてうれしく思いました。
- 異なることの大切さ。同じでなくてはならないというプレッシャーが日本の先生を疲弊させているという現実。管理職・保護者の理解を得ることのむずかしさ。個を尊重する教育をめざすといいながら、多様な学習環境を作れない現実を少しずつ変えようとしている先生方の努力に希望を感じます。一斉授業しか学んでこなかった教師が新しい理念・実践に出会うことを強く強く願います。
- 開口から唯のひと言の無駄もない、全ての言葉がテーマに結びついていて内容の濃い見事な講演でした。「民主主義的な共同体」を目指し、「自立した市民、質の高い表現者を育成するために」という人間の教育の根本の美しい理想に久しぶりに触れた思いです。そして、何より猶原先生の勇気ある実践、その膨大な楽しい事例が圧倒的でした。「差異を尊重する」→「自分ではない存在、自分には知らないこと、理解できないことがこの世には山ほど在る」→大人こそ意識を変えていかねば、そのように働きかけていかねばならないとつくづく思います。教師の力をどのように拓いてゆくかが今後の問題かと。後進を育ててくださいね。
- 日本におけるフレネ教育の歩み、猶原先生ご自身の実践の歩みの中で、個別と協同について考え直すことができました。個の表現を出発点とし、多様な音楽が生まれ学校文化として豊かな音楽が創られていく猶原先生の実践のすごさ、電車オタクの敦志や隆夫のこだわりから“よさを模倣する感染動機”（子どもたちのエネルギー）を改めて感じました。表現と協同からこれからにつながる教室を作っていきたいと思いました。ありがとうございました。

（桜蔭会愛知支部　萱野 多佳子）

◆事業報告 共催講演会

お茶の水地理学会講演会

「占領下沖縄における学校教育の再開と復興」

講師：萩原 真美 氏（聖徳大学大学院教職研究科准教授、平成 9 年卒）

【開催日時】 2023 年 6 月 17 日（土）15：00 ～ 16：30
【会場】 お茶の水女子大学共通講義棟 2 号館 201
【参加費】 無料　**【参加人数】** 68 名

お茶の水地理学会は、公益事業として 15 年以上にわたり、年に 1 回、様々な分野で活躍する方を講師に迎えて公開講演会を開催しています。コロナ禍を経て、3 年半ぶりに公開講演会を開催できました。2023 年度は、地理学科卒業生で現在は沖縄教育史を専門とされている、萩原真美氏にお話しいただきました。高校生・大学生、沖縄が好きな一般の方、教員・元教員、研究者など様々な方が来場され、会員とともに熱心に聴講なさっていました。

●講演要旨

本講演は、拙博士学位請求論文「沖縄における社会科成立過程史研究」（2019 年 3 月提出）を書籍化した『占領下沖縄の学校教育―沖縄の社会科成立過程にみる教育制度・教科書・教育課程』（六花出版、2021 年）の内容に基づき行った。

『占領下沖縄の学校教育』の構成、部ごとの概要、拙著を通じて明らかになった主たる点を紹介した後、本講演の本題である占領下の沖縄ではいかに学校教育を再開しながら復興していったかについて、『占領下沖縄の学校教育』第 4 章で論じたことを中心に話をさせていただいた。

＜講演の概要＞

占領下沖縄の学校教育の再開は、学校の再開、沖縄独自教科書の作成、教育行政機関の設置、教員養成機関の設置を経て、戦後新教育制度である初等学校 8 年、高等学校 4 年からなる八・四制（1946 年 4 月 1 日施行）の制定の順に実施された。制度を整える前に、可能なところから学校教育を再開したのが大きな特徴である。

学校の再開は思いの外早く、沖縄戦で米軍が沖縄本島に上陸したわずか 6 日後の、1945 年 4 月 6 日であった。再開可能なところから随時再開していき、組織的な戦闘が終焉する 6 月末までは 10 校だったが、本格的に再開するのは 7 月以降である。1946 年 3 月末までに初等学校（小学校に相当）が 118 校、高等学校が 19 校と概ね戦前の 7 割の学校が再開した計算で、急ピッチで再開されたことが分かる。ただし、1945 年度は戦闘・占領・復興が混在し、最低限の設備、教員、教材等もままならない状況であった。

沖縄戦からの復興という点において、学校教育の再開が「光」となったのは、学校が安全確保・地域再建・復興の拠点になった点である。逆に「影」の面として、学校に行けない子どもたちの存在が挙げられる。住民の生活より占領・基地化が優先され、教育より労働（家庭内労働・基地等への就労）を選択せざるを得ない状況であった。その「影」は当時だけでなく、現在にも大きな影響を及ぼしている。占領開始後の教育機会が十分に保障されなかったこと、具体的には義務教育未修了者の割合の人口に占める割合が、他の都道府県に比べて極めて高いことに表れている。教育を十分に受けていないことによる生活への支障や就労機会の制限が貧困の連鎖を増長させており、個人だけでなく、家庭、地域、そして県全体にまで広がっているからである。

●アンケートより

参加者のご感想の多くが、占領初期の沖縄の教育事情を初めて知った、戦争や占領があったことが、現在にも大きな影を落としていることを痛感したというものであった。それを伝えることができ、同地域・時代を研究する者として一定の役割を果たせたと安堵している。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

お茶の水地理学会／事務局　北村実央
（講演要旨は萩原真美氏による）

お茶の水学術事業会よりおしらせ

2024 年度 共催講演会・助成金事業を募集しています !!　https://www.npo-ochanomizu.org/kyousai.html

【対象となる事業期間】 2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日
【申請受付】 ＜第一次＞　2023 年 10 月 1 日 ～ 11 月 30 日
＜第二次＞　2024 年　4 月 1 日 ～　5 月 31 日
▶詳細は、HP「共催・助成金」をご覧ください。

【ご連絡・お問合せ】 お茶の水学術事業会事務局
Email：info@npo-ochanomizu.org
TEL：03-5976-1478
（月 ～ 金　10 時 ～ 16 時）

夢のつばさ♥プロジェクト

「夢のつばさ♥プロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心としたＮＰＯ法人４団体によって進められている事業です。

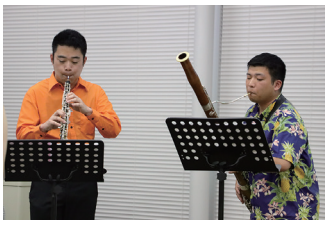
猛暑に加えて、台風に伴う豪雨も襲来し、この先も日本はずっとこんな気候になっていくのかと案じられます。コロナの状況もまた不安ですが、皆様お健やかにお過ごしになっておいでしょうか。

対面の活動ができなくなって３年半、『夢のつばさ』の仲間と集ってのキャンプを待ち続けてまいりましたが、ようやくこの夏、２泊３日の宿泊行事を実施することができました。子どもたち 17 名と入れ替わりを含む学生・OGOB ／社会人スタッフを加えて、総勢 62 名が胸躍らせて、青梅市の (株)ブリヂストン保養所 奥多摩園に集まりました。

日付	子どもたちの動き	スタッフの動き
8月5日（土）	盛岡、仙台、郡山駅にて集合 / 送迎 奥多摩園着、開会式、アイスブレイクゲーム	学生スタッフ集合 / 奥多摩園受け入れ準備 学生 / スタッフミーティング
8月6日（日）	すごろくトーク、勉強タイム、音楽会	社会人スタッフミーティング 学生 / スタッフミーティング
8月7日（月）	閉会式、スライドショー、寄せ書きタイム、奥多摩園出発、お土産タイム（上野駅）、送迎 / 盛岡、仙台、郡山駅にて解散	学生・OBOG 居残り班 / 奥多摩園整備・清掃

活動の中心となる学生たちは、誰もキャンプの経験がありません。子どもたちに会うのも初めて、という１年生主体のスタッフも大変だったことと思います。SNS で何をするにもクリックで間に合ってしまう現代、子どもたちともスマホでつながって「キャンプ行きまーす」の返事がすぐにもらえる時代ですが、子どもたちをお預かりして数日を過ごすためには、当たり前のことですが、保護者の方々からきちんと申込書をいただいて、納得して委託されたことを確認することが必須です。何のために何をすべきか、想像が及ばないのですから仕方のないことですが、健康調査票という名前の書類を送付するのも、子どもの健康状態の情報を集めて、その後に問い合わせややり取りをするためです。子どもたちが大きくなってきて、疲労によって熱を出したりするような心配は少なくなりましたが、思春期にありがちな体調不良もあります。常用している薬があるのか、どんな症状が出たことがあるのか、食べ物のアレルギーも、完全除去食を特別に作ることができないけれども、その程度の対応で構わないのか、などの確認作業が必要なのに、郵送物の送付が遅れて保護者から問い合わせが来てしまったりしました。返信用封筒に切手を貼り忘れたり、兄弟がたくさんいる家庭に調査票を送るには、84円の切手では重量オーバーになる、ということも、初めてではついうっかりしてしまう様です。そんなこんなで食事数や宿泊数の把握、部屋割りが提出日直前に確定するなど、事務局も手順を思い出しながらのやり取りが続き、はらはらさせられました。それでもOBOG が指導を買って出てくれて、学生代表たちも一生懸命に務め、参加した誰もが笑顔の印象的なキャンプとなりました。

勉強タイム


音楽会

閉会式

夢のつばさに参加している子どもたちの学年構成は様々ですが、今年の高２生に大きな一団があり、男子も多く、すぐに打ち解ける大事な仲間になっています。今回は、その一団が皆で参加してくれました。東京へ向かう新幹線で、高２男子の一人が「学生は誰が来るのかな」と OB の参加者のことも気にしていました。「兄貴たち」とのちょっとしたやり取りや、宿舎での卓球なども楽しみにしていました。また将来の職業として「保育士を考えている」という男子もあり、先に保育士となって活躍中の先輩男子が、数年前に「ピアノの練習に苦労していますー」などと話していたのをしっかり見ていたのだなあと、ほほえましく思いました。来年は受験準備などで参加者が減れば、この活動の存続に影響も出てくるかと思います。OGOB ／社会人スタッフは、この先のことも含め、久しぶりに顔を合わせて語り合いました。夢のつばさという稀有な活動を絶やさず、残っている小中学生たちも引き続き引き受けつつ、身の丈に合う新しい道に発展させていければと、話し合いは継続していきます。多くの方々のご支援に支えられて、これからも子どもたちの成長に寄り添って参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(夢のつばさ♥プロジェクト)

ご寄付のお願い

【口座】三井住友銀行　大塚支店（店番号 227）普通 1284200
【名称】特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子　※ 夢のつばさ♥プロジェクトの専用口座です。
※ 恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。
ご寄付いただく際には、ご芳名、ご住所（連絡先）を下記までお知らせください。
連絡先：事務担当　滝澤公子　TEL&FAX：03-5978-5362　E-mail：tsubasa@npo-ochanomizu.org

お茶の水女子大学 イベント情報

2023 年 11 月以降に開催される各種イベントのお知らせです。※いずれも参加費は無料

◆お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 主催

開催日時	イベント・講座名	備考
2023 年 11 月 19 日 (日) 14：00 ～ 16：00	第 4 回女子中高生のための VR 体験セミナー 【司会】伊藤貴之 氏 (本学基幹研究院教授、文理融合 AI・データサイエンスセンター長) 【講演者】藤山真美子 氏 (本学文理融合 AI・データサイエンスセンター准教授)	【形式】cluster (VR 専用 SNS) にてオンライン開催 【対象】女子中学生・高校生 【詳細】http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP 内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
2023 年 12 月 10 日 (日) 14：00 ～ 16：00	第 1 回 SDGs セミナー 【講演者】株式会社 J E R A	【形式】対面 (お茶の水女子大学本館 306 室) 【対象】女子中学生 【詳細】http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP 内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
2023 年 12 月 17 日 (日) 14：00 ～ 16：00	第 1 回 クイズから考える身のまわりのコト・セミナー 【ナビゲーター】 本学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程 3 名	【形式】対面 (お茶の水女子大学本館 306 室) 【対象】女子中学生 【詳細】http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP 内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp
2024 年 2 月 18 日 (日) 14：00 ～ 15：30	第 3 回 女子中高生向けリーダーシップセミナー 【講演者】簾藤麻木 氏 (nenlin) 笹原えりな 氏 (ウィズアプリシエイト株式会社) 【モデレーター】横田響子 氏 (株式会社コラボラボ)	【形式】Zoom によるオンライン開催 【対象】女子中学生・高校生，保護者，教員 【詳細】http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】HP 内の専用フォームにて 【問合せ】ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp

◆お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 主催

開催日時	イベント・講座名	備考
2023 年 12 月 25 日 (月)	グローバルリーダーシップ研究所セミナー 【講師】Lara Palma 氏 (ブルゴス大学 (スペイン) 教授)	【形式】対面と Zoom によるハイブリッド開催 【対象】本学学生、教職員、一般 (事前登録制) 【詳細】https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/index.html 【申込み】HP 内の専用フォームにて 【問合せ】IGL-seminar@cc.ocha.ac.jp
2024 年 2 月 3 日 (土) 午後	グローバルリーダーシップ研究所国際シンポジウム 「米国のリーダーシップ教育の最前線：社会正義とリーダーシップの関わりについて (仮)」 ※日英同時通訳あり 【講演者】Julie Owen 氏 (ジョージ・メイソン大学 (米国) 准教授)　他	【形式】対面と Zoom によるハイブリッド開催 【対象】本学学生、教職員、一般 (事前登録制) 【詳細】https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/index.html 【申込み】HP 内の専用フォームにて 【問合せ】info-leader@cc.ocha.ac.jp

2023年度 ブータン連続セミナー

※開催時間はすべて、13：00 ～ 15：00 です。

【形式】Zoom によるリアルタイム配信
【主催】グローバル協力センター、日本ブータン研究所
【対象】お茶の水女子大学関係者・一般

【問合せ】
グローバル協力センター講師　平山雄大
E-mail：hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

開催日時	イベント・講座名	備考
2023 年 11 月 18 日 (土)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ㊵　―『ASIAN VOICES』「ブータン　幸せを奏でる　ジグメ・ドゥッパ」(2014 年) ―」＋α (予定)	【詳細】http://www.bhutanstudies.net/21685/ 【申込み】https://bit.ly/3JVqCyc
12 月 8 日 (金)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ㊶　―『Joanna Lumley in the Kingdom of the Thunder Dragon』(イギリス・1997 年) ―」	【詳細】http://www.bhutanstudies.net/21686/ 【申込み】https://bit.ly/3G6rzTa
12 月 23 日 (土)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ㊷　―『Bhutan: A Strange Survival』(イギリス・1982 年) ―」	【詳細】http://www.bhutanstudies.net/21687/ 【申込み】https://bit.ly/3K59ki2
2024 年 1 月 13 日 (土)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ㊸　―『Father Bill Mackey: Beloved Son of Bhutan』(カナダ・1976 年) 他 ―」	【詳細】http://www.bhutanstudies.net/21688/ 【申込み】https://bit.ly/3ZyctN9
2 月 2 日 (金)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ㊹　―『世界の日本人』「秘境に生きるブータン農業指導」(1968 年) 他 ―」	【詳細】http://www.bhutanstudies.net/21689/ 【申込み】https://bit.ly/3Zycrov
3 月 2 日 (土)	「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ㊺　―シッキム政務官による記録映像 (1930 ～ 1940 年代) 他 ―」	【詳細】http://www.bhutanstudies.net/21690/ 【申込み】https://bit.ly/40M1xg8

お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾（きいんじゅく）2023 年度

社会人向け講座

詳細と各申込は、徽音塾Webサイト http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/ をご覧下さい。 ※「きいんじゅく」で検索可能です。

2023 年度 開催概要

時　間	13:30 ～ 16:40（すべて土曜日）
形　式	原則的には Zoom を使うオンライン講座 ※ PC での受講を推奨します ※ 1 科目から受講いただけます ※ 最新情報は Webサイト、X（旧 Twitter）をご覧下さい。 Web　X(旧Twitter)

【2023 年 11 月～ 2024 年 2 月開催の講座】

※ 1 科目から受講することができます。

(B)	11/4,11	マーケティング入門（神原理）
(B)	11/18,25	いちばんやさしい脱炭素社会 ～カーボンニュートラルの最前線～（松田有希）
(B)	12/9,16	会計基礎力を身に付ける －取引記録の仕組みと企業活動の成績表－（櫻井康弘）
(B)	2/3,10	働くあなたを守る、知っておきたい労働法（内藤忍）

【入塾料および受講料】

★ 2023 年度 入塾料（税込）　初回申込時のみ必要となります。

お茶の水女子大学の卒業生・修了生／法人等団体からの申込	無料
その他（上記以外の個人で申込の方）	1,100 円

★受講料（税込）

(B) ビジネス講座　1 科目　15,400 円 ※2日間分

<お問合せ・連絡先> お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾 事務局
E-mail：kiin-le@cc.ocha.ac.jp

第 74 回徽音祭

11 月 11 日（土）・12 日（日）

今年度のテーマ「灯」（ともしび）とともに、
4 年ぶりとなる 対面 での徽音祭をお届けします！！

“テーマ考案者より
賑わい、明るさ、温かさ、そして一人一人が灯火のように輝いて徽音祭を明るく照らして欲しい、そんな思いを込めてこのテーマを考案しました。情熱と活力で徽音祭を灯し、4 年ぶりとなるキャンパスでの徽音祭を盛り上げます。

企画や予約等の詳細は、
公式ホームページへ▸▸

＼フォローして／
最新情報をゲット！

@ocha.kiin　@OCHA.KIIN

お問い合わせ：kifc2023.kiin@gmail.com
（第 74 回徽音祭実行委員会委員長　小川祐奈）

灯（ともしび）

桜蔭会よりご案内

桜蔭塾　http://www.ouinjuku.com/

懐かしいお茶大の先生方や、桜蔭会会員の方を講師に迎え、対面やオンラインでお話を聴くことができる、会員と在学生のための学びの場です。

開催日時	講師	テーマ
2023 年		
11 月 23 日(木･祝) 14：00 ～ 15：30	埋忠 美沙 氏（お茶の水女子大学 准教授）	歌舞伎の創造 ～役者と作者～
2024 年		
1 月 20 日（土） 14：00 ～ 15：30	藤原 葉子 氏（お茶の水女子大学 元副学長）	かしこい油の選び方　～健康と持続可能な地球のために～
3 月 16 日（土） 14：00 ～ 15：30	多賀 幹子 氏（ジャーナリスト・桜蔭会会員）	英国女王の品格

新講座　**ブリッジ入門講座**
開催日：月2回木曜日 11 月～3月 計 10 回コース
会場：国際交流留学生プラザ3F 参加費：3000 円 / 月

お茶大（水村研究室）とコラボ企画

桜蔭塾「オンラインダンス教室」 https://www.ouinjuku.com/dance
月 1 回 火曜日 11：00－12：00(Zoom)
お申し込み：随時 ／参加費無料 ／どなたでも

就活応援・「Zoom で OG 訪問」
学生さんお申し込み＆OGアドバイザー募集中！

新規アドバイザー登録大歓迎！

お茶大を卒業した先輩に就活や入社後のことを聞いてみませんか？

【登録の OG アドバイザー】
編集者・美術館学芸員・弁護士・文系研究職・理系研究職・国際機関職員・一般企業・公務員・キャリアコンサルタント　など

学生OG訪問お申込み　OGアドバイザーご登録

編集後記

3 号にわたり、それぞれ 1 万字に及ぶ TOPICS をご寄稿くださった室伏先生は、今年度新設された大学の学長に就任されるなど、未来を見据えて、更なる挑戦を続けられています。「お茶の水女子大学の教育･研究環境整備」は、エネルギッシュな生き方のルーツに触れるという点でも貴重な記録だと思います。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか？次号は 2024 年 2 月に 2500 部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1 回につき 20,000 円。詳しくは下記までお問合わせください。

事務局

OPEN　月～金 10:00 ～ 16:00
〒 112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3 号館 204
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail：info@npo-ochanomizu.org
https://www.npo-ochanomizu.org
※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。

◆事務局所在地
東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関
地下鉄　丸の内線
茗荷谷駅から徒歩7分
地下鉄　有楽町線
護国寺駅から徒歩8分
都バス
大塚2丁目バス停すぐ